

# 男女平等の判断基準について

スポーツ経営組織学ゼミナール 1313066 山中 愛祐美

## 1. 研究動機・研究目的

1986年の男女雇用機会均等法の施行から約30年が経ち、男女共同参画社会基本法の施行や、改正男女雇用機会均等法の施行、改正育児・介護休業法の施行など、男女平等な社会を実現するために法制度の整備が進められている（宇井、2005）。安倍晋三政権は、女性活躍の推進を掲げ、「待機児童の解消」「職場復帰・再就職の支援」「女性役員・管理職の増加」に国を挙げて取り組んでいる。しかし、2014年に内閣府が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」によると、社会全体で「男性の方が女性よりも優遇されている」と考える人は7割を超えており、「男女平等」だと回答した人は2割と低い割合となっている。このように「男女平等」と判断するには個人の判断が関連している。宇井（2002）は、人々が男女平等を判断するには8つの判断基準が存在するという事を明らかにしている。個人はこの8つ判断基準に従って男女平等かそうでないかを判断すると考えられているが、その際には職場（公的領域）や家庭・育児（私的領域）といった場面要因が関連するとされている。しかし、宇井の研究では女子大学生のみを対象として行われており、男子大学生の判断基準、またどのように判断基準を用いているかは検証されていない。

そこで本研究では、男女平等の判断基準がどのように用いられているのか、大学生を対象として明らかにする。また、公的領域（部活・ゼミナール、メディアへの露出）と私的領域（恋愛、夫婦）である場面要因との関連性を検証する

## 2. 研究方法

### 【調査対象】

大学4年生 12名（男性6名 女性6名）

### 【調査期間】

2016年10月4日ー2016年10月14日

### 【調査方法】

1対1形式、半構造化インタビュー調査

フェイスシート

質問紙調査（男女平等の判断基準尺度）

## 3. 主な結果と考察

12名のインタビューデータを逐語録にし、テキスト化、文字起こしをしたあと、重要な文書・センテンスを抜き出し、グループ化ならびにキーワードの抽出をし、要約したものを場面別に比較した。

その結果、それぞれが考える男女平等は存在するが、場面によって異なってくることが示唆された。公的領域（部活・ゼミナール）の場面で大学生は、自分自身の経験から性別に関わらず、個々人の能力を活かそうと活動し、能力があれば男女関係ないという「個人能力の

原理」を重視していた。公的領域（メディアへの露出）では、レベルの高さを求めていることから、メディアに露出される人の能力と努力を重視する「努力の原理」を用いていた。公的領域では男女関係なく、能力や結果を重視していることからこのような結果になったと考える。私的領域（恋愛）の場面では、1人の問題ではないから話し合ってから決めたいという「話し合いによる手続き的公正の原理」、相手の意思を大切にしたいという「自己決定に基づく手続き的公正の原理」が重視されていました。平等と言いながらも男性がリードし、女性がついていくという形が自然と定着していた。また、この状態を不平等だと思っているインタビュー対象者はみられなかった。私的領域（夫婦）の場面でも、同じような結果が見られたが、恋愛の場面とは異なり、両親が大きく影響から判断基準を用いている。

#### 4. 結論

本研究において以下のことが示唆された。

- 1) 公的領域では能力・結果を重視して男女平等を判断する。
- 2) 私的領域では話し合いを重視して男女平等を判断する。
- 3) それぞれの意志を尊重する、自己決定における手続き的公正の原理は、全ての場面で重視されている。
- 4) 公的領域（部活・ゼミナール）の場面で大学生は、自分自身の経験から性別に関わらず、個々人の能力を活かそうと活動し、判断基準を用いている。
- 5) 公的領域（メディアへの露出）の場面ではメディアの内容のレベルの高さを求めていることから、メディアに露出される人の能力と努力を重視していた。
- 6) 私的領域（恋愛）の場面では、個人ではなく2人の問題として考え自分自身の経験から、判断基準を用いていた。
- 7) 私的領域（恋愛）の場面では、平等と言いながらも男性がリードし、女性がついていくという形が自然と定着していた。また、この状態を不平等だと思っているインタビュー対象者はみられなかった。
- 8) 私的領域（夫婦）の場面では、両親の影響が大きくそこから判断基準を用いている。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

論文を執筆するにあたり、多くの方々のご指導ならびにご支援を賜り誠に感謝申し上げます。特に水野先生には本当に温かい指導をいただき心から感謝いたします。ゼミ長として至らない点も多々ありましたが、水野先生がいつも温かく見守ってくださったおかげでゼミ長として2年間、悔いなく活動することができました。ゼミナール活動で学んだことを自分の力にし、これからも頑張ります。水野ゼミのゼミ長として活動できたことは私にとって本当に大きなものでした。ありがとうございました。また、本論文を執筆するにあたり、論文の書き方等ご指導いただきました、大学院生の皆さまに心より感謝申し上げます本当にありがとうございました。

4年間の学生生活、2年間のゼミナール活動でたくさんの人と出会うことができ、色々な経験をすることができました。高校2年生から順天堂大学への入学を夢見て、こうして学生生活を送ることができたことを幸せに思います。順天堂大学、水野ゼミで学んだことを活かし、社会人としてこれからも頑張ります。本当にありがとうございました。